

2018 スーパーGT 第4戦  
 チャン インターナショナル サーキット  
 2018年6月30日(土)

**予選** 来場者: 9,417人 天候: 曇り時々小雨

2018年のスーパーGTシリーズ第4戦は、シリーズ唯一の海外戦。今年で5年連続の開催となるタイ国 プリーラム、チャン インターナショナル サーキットが舞台。開幕戦と第3戦で3位表彰台を獲得し、ランキング3位のKeePer TOM'Sの1号車は、昨年ポールtoウインを飾った同地に帰ってきた。今年は雨期の6月開催となり、予選前に降ったスコールに翻弄され、厳しいコンディション下で難しい判断が要求された。そして、1号車は、12番手グリッドから決勝をスタートすることとなった。



- 26ポイントを獲得して、ウエイトハンディ52kg(実ウエイト35kg+燃料流量規制1段階)を背負いながら臨む。
- 雨は、セッション開始前に一旦止んだが、コースコンディションはウエット。平川 亮がQ1を担当。レインタイヤを装着してコースイン。
- 平川は、2周してスリックタイヤに交換。コースインするが、タイヤのウォームアップが予想よりも遅く、再びピットインしてレインタイヤへ戻してアタックを続けた。
- 周回を重ねるごとに徐々にタイムをアップさせたが、Q2進出は果たせず、12番手となった。
- ニック・キャンディにドライブするチャンスは無かった。

DRIVER	Car No.	Qualifying 1	Qualifying 2
平川 亮	1	P12	1:31.039
ニック・キャンディ			
天候	曇り時々小雨/ウエット→ドライ		
気温/路面温度	気温: 29-28度C		路面温度: 35-34度C

### 平川 亮 (1号車ドライバー)



「レインタイヤでコースインしてすぐにスリックでも大丈夫ではないかと判断してピットインしてスリックに替えたのですが、全然温まらないので、またすぐにレインに戻しました。結果的には、スリックのまま走った方が良かったみたいでしたね。マシンのにはハンディウエイト&燃料リストラクターでスピードが出ない以外は良いバランスだと思うので、決勝でポイント獲得を目指したいです」

### ニック・キャンディ (1号車ドライバー)



「とても難しいコンディションだった。自分は実際にこのコンディションでドライブできていないので、判断できない。12番手からも良いレースをしてポイントを獲得したい」

### 小枝 正樹 (1号車エンジニア)



「ドライ・コンディションでのマシンバランスは良かったのですが、雨が降って、路面が乾き始めて、タイヤチョイスの判断が別れる状況でした。レインタイヤ、スリックタイヤ両方ともに難しい状況でしたね。結果論としては、スリックで走り続けさせた方がよかったです。しかし、それもとても難しい判断でした。決勝は、できればドライ・コンディションでやりたいですね」

### 関谷 正徳 (1号車チーム監督)



「当然、走り出しはレイン。そしてドライバーの判断でスリックへ。そしてまたレインタイヤへ交換。天候に翻弄された予選でしたが、ステアリングを握るドライバーに状況の判断を委ねており、その結果です。ただ、ポイントを争っているライバルの一角、23号車の前のグリッドでスタートできるので、ポイントゲットして差を縮めたい」

### 館 信秀 (総監督)



「持ち込んだタイヤのレンジがレイン、スリックともにコンディションに、マッチしなかったということ。ハンディウエイトを背負って苦しい戦いとなるが、ここで踏ん張って後半戦へつなげたい」



2018 スーパーGT 第4戦  
 チャン インターナショナル サーキット  
 2018年7月1日(日)

**決勝** 来場者: 20,219人 天候: 曇り時々晴れ

2018 スーパーGT シリーズ第4戦において、LEXUS TEAM KeePer TOM'S のカーナンバー1 は、12番手グリッドからスタートし、中段グループの攻防戦で目まぐるしく順位が変動する中、7位までポジションをアップ。ドライバー交代のピットインで作業に手間取り順位を下げてしまったが8位でフィニッシュ。貴重な3ポイントを獲得した。



- ニック・キャンディがスタートを担当。
- スタート直後は順位を落とすシーンもあったが、ステイントの中盤には10位以内に進出し、7位まで順位をアップした。
- 34周してピットイン。平川 亮にドライバー交代。タイヤ交換の作業中に左フロントのホイールナットが締まらずにタイムロス。順位を下げてしまった。
- 平川は、終盤に順位を挽回、8位フィニッシュを果たした。
- 3ポイントを加えて、トータル29ポイント。ランキング4位タイとなっている。

DRIVER	Car No.	Race Result / Fastest Lap	
平川 亮	1	P8	1:25.966
ニック・キャンディ			1:26.220

  

天候	曇りときどき 晴れ/ドライ	
気温/路面温度	気温: 32-34度C	路面温度: 47-42度C



**平川 亮 (1号車ドライバー)**

「コースインして順位を下げたのは残念でしたが、自分のステイントは常にバトルが展開されているポジションだったので、レースを楽しむことができました。ランキング上位のマシンがポイントを獲得できなかった中、貴重な3ポイントを獲得できました」

**ニック・キャンディ (1号車ドライバー)**

「せっかくポジションをアップしたのにピット作業の遅れで、また元のポジションくらいまで下がってしまってガッカリしました。これもレースと諦めるのは簡単だけれど、立て直さなくてはならない。次戦の富士大会は、更にハンディが課せられるけれど、シリーズ最長の500マイルレースなので、最後まであきらめずに戦うつもりだ」

**小枝 正樹 (1号車エンジニア)**

「ピット作業でタイムロスをしてしまいました。左フロントのホイールナットが噛んでしまって締められず、20秒くらいを費やしてしまい、とても大きなタイムロスでした。それ以外は問題なかったので、とても悔しい結果となりました。ドライバー二人の頑張りで8位フィニッシュ。ランキングを争っている上位のライバル達がポイントを得られない状況の中、我々は3ポイントを獲得できたことは、ポジティブに捉えています」

**関谷 正徳 (1号車チーム監督)**

「もっと上位でフィニッシュできる折角のチャンスを、ピット作業の失敗によって逃してしまった一戦でした。シリーズも前半戦を終えて、再度、ミスのないレースを戦えるように再スタートする必要性を強く感じました。チャンピオンを目指すには、どんな小さなミスも許されない。次戦から仕切り直しを図ります」

**館 信秀 (総監督)**

「ワンミスが大きかった。それでもポイントゲットできたのは、まだ、チームに力があることと判断したい。更にハンディが課せられて、これからも苦しい戦いが続くが、シリーズ最大の目標に向けて進むのみ」

※次戦の第5戦は、8月4-5日(日)に静岡県の富士スピードウェイにおいて、シリーズ最長の500マイル(800km)レースで開催されます。